

学校教育目標「豊かな人間性とたくましく生き抜く力を身につける子どもの育成」



敷島南小学校
学校便り NO.11
令和5年9月
学校長 五味 正年

全校競技での6年生の姿

特別日課2週目に入りました。本格的に全校種目の練習が始まりました。

練習の中では、先週からの反省を生かし、6年生が考えてきた注意点と作戦を発表していました。①カラーコーンの回り方、②棒から手を離すタイミングの確認、③ルール違反にならないための注意点について、6年生から指導がありました。また、小さなことですが、棒を持って走り出すとき、全員が素早く棒を持つタイミングや、交替場面で低学年がうまく手を離すことができるタイミングを見計らっての声かけなどについても、入念に練習をしていました。たぶん、このような小さな積み重ねが、本番の勝負の分かれ目となってくるのではないかと思います。今週の練習を見ていると、先週までの練習とは違う、6年生の意気込みを感じました。



それぞれの組に分かれ、6年生からの作戦と注意点を聞いている下級生



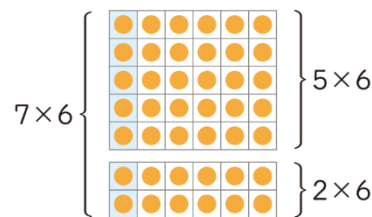
作戦や注意点を生かすための練習



6年生が休み時間等を利用して
各色組のテーマ横断幕を作成中です。

生きて働く学力の育成を目指して

6年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。今年度実施されたのは、国語と算数の2教科でした。問題は、文部科学省のHPでも紹介されているので、御覧になった方もいらっしゃると思います。知っているだけでは解くことのできない問題です。例えば、九九を暗記しているだけではなく、九九を使って「 9×15 」の答えを求められるような力が必要となります。そのために、学校の授業では、既習（今まで学習してきた事柄）をもとに、既習の考えを拡張してみたり組み合わせてみたりしながら新しい考えをつかっていく学習活動が必要になってきます。九九でもこのような活動が必要になってきます。7の段の学習をするときは、①7ずつ増えていくので足し算していく、② 7×6 （6の段までの学習が終わっている）までは、かけられる数とかける数を逆さにし、 6×7 で求める。③かけられる数7は2と5の足し算なので5の段と2の段（図を使って表して）を組み合わせて求める。など7×6の方法を使いながら答えを出し、7の段をつくっていきます。このように既習事項を生かし、新たな考えを子どもたちの手でつくり上げていくのです。多くの考えがあり、それを学んでいくことで「 9×15 」にも対応できる可能性が広がってきます。また、この学習の中では、感覚的に交換法則や分配法則を学ぶこともできます。（小学校では、法則の名前を勉強はしないのですが・・・）生きて働く学力の育成は難しいですが、引き続き校内研究を中心に教員の授業力向上に取り組んで参ります。



なお、本校の結果（HPでも公開しています）は、下記の通りでした。国語の漢字の書きや算数の記述するために必要な基礎的な知識については課題があります。毎日の家庭学習における繰り返しの練習が必要となります。学力調査と併せて実施した学習状況調査では、全国に比べ家庭学習の時間が少ないという結果でした。今後、家庭学習の時間の確保と質の向上に取り組んでいきたいと思っております。ご家庭でも励ましをお願いします。

また、学習状況調査では、全国と比べて、ICTを使うことが学習の中で役に立っていると感じ、積極的に使っている傾向が見られました。また、「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めること」や、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいくこと」ができていると回答する児童の割合が高く、自主的な活動に意識を高く持ち、学校生活を良くしていこうと思っている児童が多いことがわかり、大変嬉しく思いました。

国語	<p>国語の平均正答率は全国より高く、全体的に高い定着がみられます。特に「読むこと」「書くこと」について、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約すること、文章と図形などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、伝わるように書き表し方を工夫することがよくできています。一方で「知識及び技能」について、文中で正しい漢字を選択することはできているものの、正しく書き直すということについては課題がみられます。</p>
算数	<p>算数の平均正答率は全国よりやや低く、少し課題がみられます。特に「データの活用」について、表から必要な数や条件に合った数を読み取ること、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見だした違いを言葉と数を用いて記述することに弱い傾向がみられます。また、「変化と関係」について、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさを式や言葉を用いて記述することや、逆に二つの数量が比例ではないことを式や言葉を用いて記述し説明することにも課題がみられました。</p>